

「三菱UFJ」新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ」7月・8月・9月の市況動向と基準価額の変動要因

追加型投信 / 海外 / 債券

7月・8月・9月の市況動向

2010年7月のエマージング債券市況は、IMF(国際通貨基金)が2010年の世界経済成長率見通しを上方修正したことや欧州の銀行を対象としたストレステストの発表を受け、投資家のリスク回避姿勢が緩和し、堅調な経済指標の発表が確認された新興国の債券が買われ、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。  
為替市況で一部の対象通貨に対して円高となったものの、債券価格の上昇が寄与し、各コースの基準価額は上昇しました。

【2010年7月の基準価額の変動要因分析(概算値)】

(1万口当たり、単位:円)

三菱UFJ 新興国債券 ファンド 通貨選択シリーズ	基準価額 (分配金落ち後) (10/6/30現在)	基準価額 (分配金落ち後) (10/7/30現在)	前月末との差	基準価額の変動要因(10/6/30～10/7/30)					
				内訳					
				利子収入	為替ヘッジ プレミアム/ コスト	為替損益	その他 (売買損益等)	信託報酬	分配金 (税引前)
円コース	11,099	11,406	307	45	-2	-	344	-15	65
米ドルコース	10,211	10,342	131	41	-	-153	316	-14	60
ユーロコース	9,543	10,377	834	38	1	542	315	-13	50
豪ドルコース	11,940	12,681	741	46	42	473	356	-16	160
ブラジルリアルコース	11,920	12,267	347	46	78	75	365	-16	200
南アフリカランドコース	11,671	12,327	656	45	60	330	346	-14	110
トルコリラコース	10,461	11,071	610	40	51	337	318	-16	120
中国元コース	9,617	9,780	163	37	1	-113	271	-13	20
インドネシアルピアコース	9,881	10,149	268	38	23	-76	367	-13	70

分配金は基準価額のマイナス要因となります。

・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。  
 ・米ドルコース以外の為替ヘッジプレミアム/コストは、「各通貨の短期金利(円、ユーロ、豪ドルは1ヵ月LIBOR、ブラジルリアル、南アフリカランド、トルコリラ、中国元、インドネシアルピアはJPモルガンELMI+の利回り) - 米ドルの短期金利(米ドル1ヵ月LIBOR)」(プラスが為替ヘッジプレミアム、マイナスが為替ヘッジコスト)相当として簡便的に算出したものであり、実際の値とは異なります。  
 ・LIBOR: ロンドン・インターバンク・オファード・レート=「ロンドン銀行間貸し手金利」のことで、ロンドン市場における銀行間取引の金利です。  
 ・円コース以外のが為替損益は、各通貨の円に対する為替評価損益の概算値です。  
 ・その他(売買損益等)は、基準価額(分配金込み)の変動幅から利子収入、為替ヘッジプレミアム/コスト、信託報酬を差し引いて算出しています。  
 ・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。また、四捨五入のため基準価額の変動幅と基準価額の変動要因の内訳の合計(分配金はマイナス)が相違することがあります。  
 ・米ドルコース以外では対米ドルで為替ヘッジを行うことにより、各コースの対象通貨の為替変動リスク(対米ドル)をヘッジしますが、完全にヘッジを行うことができない場合があります。よって為替ヘッジプレミアムを十分に得ることができなかつたり、米ドルに対する為替変動の影響を受ける可能性があります。  
 ・上図の変動要因分析は、組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

**「三菱UFJ」新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ」7月・8月・9月の市況動向と基準価額の変動要因**

8月は、インフレの落ち着きや良好なファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)が確認された国の債券が買われる展開となり、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。しかし、為替市況で対象通貨に対する円高が進行したことなどを背景に、円コース以外のコースの基準価額は下落しました。

**【2010年8月の基準価額の変動要因分析(概算値)】**

(1万口当たり、単位:円)

三菱UFJ 新興国債券 ファンド 通貨選択シリーズ	基準価額 (分配金落ち後) (10/7/30現在)	基準価額 (分配金落ち後) (10/8/31現在)	前月末との差	基準価額の変動要因(10/7/30~10/8/31)					
				内訳					
				利子収入	為替ヘッジ プレミアム/ コスト	為替損益	その他 (売買損益等)	信託報酬	分配金 (税引前)
円コース	11,406	11,604	198	42	-1	-	238	-15	65
米ドルコース	10,342	10,241	-101	38	-	-282	216	-14	60
ユーロコース	10,377	9,986	-391	38	3	-574	206	-14	50
豪ドルコース	12,681	12,410	-271	44	45	-420	236	-17	160
ブラジルリアルコース	12,267	12,134	-133	43	77	-275	239	-16	200
南アフリカランドコース	12,327	12,206	-121	43	62	-343	242	-15	110
トルコリラコース	11,071	10,862	-209	38	56	-382	215	-16	120
中国元コース	9,780	9,672	-108	34	-2	-300	194	-13	20
インドネシアルピアコース	10,149	9,945	-204	35	30	-302	116	-13	70

分配金は基準価額のマイナス要因となります。

当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

米ドルコース以外の為替ヘッジプレミアム/コストは、「各通貨の短期金利(円、ユーロ、豪ドルは1ヵ月LIBOR、ブラジルリアル、南アフリカランド、トルコリラ、中国元、インドネシアルピアはJPモルガンELMI+の利回り) - 米ドルの短期金利(米ドル1ヵ月LIBOR)」(プラスが為替ヘッジプレミアム、マイナスが為替ヘッジコスト)相当として簡便的に算出したものであり、実際の値とは異なります。

円コース以外為替損益は、各通貨の円に対する為替評価損益の概算値です。

その他(売買損益等)は、基準価額(分配金込み)の変動幅から利子収入、為替ヘッジプレミアム/コスト、信託報酬を差し引いて算出しています。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。また、四捨五入のため基準価額の変動幅と基準価額の変動要因の内訳の合計(分配金はマイナス)が相違することがあります。

米ドルコース以外のコースでは対米ドルで為替ヘッジを行うことにより、各コースの対象通貨の為替変動リスク(対米ドル)をヘッジしますが、完全にヘッジを行うことができるとは限りません。よって為替ヘッジプレミアムを十分に得ることができなかつたり、米ドルに対する為替変動の影響を受ける可能性があります。

上図の変動要因分析は、組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

「三菱UFJ」新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ」7月・8月・9月の市況動向と基準価額の変動要因

9月は、米国の経済指標が事前予想を上回ったことや中国の製造業景況指数が改善したことなどを背景に、投資家のリスク回避姿勢が後退するなか、インフレの落ち着きや良好なファンダメンタルズが確認された国の債券を中心に、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。

為替市況で米ドルとインドネシアルピア以外の対象通貨に対する円安が進行したことなどから、米ドルコースを除く各コースの基準価額は上昇しました。

(インドネシアルピアコースについては、インドネシアルピアにおける対円での下落の影響が相対的に小さかったことから、基準価額は上昇しました。)

【2010年9月の基準価額の変動要因分析(概算値)】

(1万口当たり、単位:円)

三菱UFJ 新興国債券 ファンド 通貨選択シリーズ	基準価額 (分配金落ち後) (10/8/31現在)	基準価額 (分配金落ち後) (10/9/30現在)	前月末との差	基準価額の変動要因(10/8/31~10/9/30)					
				内訳					
				利子収入	為替ヘッジ プレミアム/ コスト	為替損益	その他 (売買損益等)	信託報酬	分配金 (税引前)
円コース	11,604	11,670	66	40	-1	-	108	-15	65
米ドルコース	10,241	10,175	-66	35	-	-129	101	-14	60
ユーロコース	9,986	10,636	650	34	3	575	101	-14	50
豪ドルコース	12,410	13,242	832	41	44	810	114	-17	160
ブラジルリアルコース	12,134	12,340	206	40	70	183	130	-16	200
南アフリカランドコース	12,206	12,765	559	40	59	468	117	-15	110
トルコリラコース	10,862	11,275	413	36	57	350	107	-17	120
中国元コース	9,672	9,859	187	32	-16	43	161	-13	20
インドネシアルピアコース	9,945	10,075	130	33	28	-38	190	-13	70

分配金は基準価額のマイナス要因となります。

・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

・米ドルコース以外の為替ヘッジプレミアム/コストは、「各通貨の短期金利(円、ユーロ、豪ドルは1ヵ月LIBOR、ブラジルリアル、南アフリカランド、トルコリラ、中国元、インドネシアルピアはJPモルガンELMI+の利回り) - 米ドルの短期金利(米ドル1ヵ月LIBOR)。(プラスが為替ヘッジプレミアム、マイナスが為替ヘッジコスト)相当として簡便的に算出したものであり、実際の値とは異なります。

・円コース以外のもので為替損益は、各通貨の円に対する為替評価損益の概算値です。

・その他(売買損益等)は、基準価額(分配金込み)の変動幅から利子収入、為替ヘッジプレミアム/コスト、信託報酬を差し引いて算出しています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。また、四捨五入のため基準価額の変動幅と基準価額の変動要因の内訳の合計(分配金はマイナス)が相違することがあります。

・米ドルコース以外のコースでは対米ドルで為替ヘッジを行うことにより、各コースの対象通貨の為替変動リスク(対米ドル)をヘッジしますが、完全にヘッジを行うことができないとは限りません。よって為替ヘッジプレミアムを十分に得ることができなかつたり、米ドルに対する為替変動の影響を受ける可能性があります。

・上図の変動要因分析は、組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

**「三菱UFJ」新興国債券ファンド 通貨選択シリーズの市況動向と基準価額の変動要因  
(2009年4月末～2010年9月末)**

当ファンドが設定された直後の2009年4月末からの各ファンド(中国元コース、インドネシアルピアコースは2010年5月6日設定)の変動要因を見ますと、債券の利子収入に加え、円コース・米ドルコース・中国元コースを除き、為替ヘッジプレミアムが上乘せられました。中国元コースを除く各コースの基準価額の変動幅と支払い済み分配金(税引前)の合計はプラスとなっております。

**【2009年4月末から2010年9月末までの基準価額の変動要因分析(概算値)】**

(1万口当たり、単位:円)

三菱UFJ 新興国債券 ファンド 通貨選択シリーズ	基準価額の変動幅 (09/4/30～10/9/30)	基準価額の変動幅 + 支払い済み分配金 (税引前) (09/4/30～10/9/30)	基準価額の変動要因(09/4/30～10/9/30)					
			内訳	利子収入	為替ヘッジ プレミアム/ コスト	為替損益	その他 (売買損益等)	信託報酬
円コース	1,644	2,594	850	-17	-	2,008	-249	950
米ドルコース	108	1,008	810	-	-1,481	1,911	-236	900
ユーロコース	424	1,294	850	35	-1,318	1,971	-245	870
豪ドルコース	2,902	4,922	933	628	1,572	2,071	-285	2,020
ブラジルリアルコース	2,147	4,967	914	1,377	984	1,972	-277	2,820
南アフリカランドコース	2,526	4,176	880	1,119	555	1,877	-255	1,650
トルコリラコース	1,060	2,860	827	1,048	-618	1,869	-264	1,800
中国元コース <sup>2</sup>	-141	-81	184	-43	-936	780	-65	60
インドネシアルピアコース <sup>2</sup>	75	285	187	184	-988	967	-65	210

1分配金は基準価額のマイナス要因となります。

2中国元コース、インドネシアルピアコースは各コースが設定された2010年5月6日からの変動要因です。  
また、中国元コース、インドネシアルピアコースの初回決算日は2010年7月20日です。

当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

米ドルコース以外の為替ヘッジプレミアム/コストは、「各通貨の短期金利(円、ユーロ、豪ドルは1ヵ月LIBOR、ブラジルリアル、南アフリカランド、トルコリラ、中国元、インドネシアルピアはJPモルガンELMI+の利回り) - 米ドルの短期金利(米ドル1ヵ月LIBOR)」(プラスが為替ヘッジプレミアム、マイナスが為替ヘッジコスト)相当として簡便的に算出したものであり、実際の値とは異なります。

円コース以外の方替損益は、各通貨の円に対する為替評価損益の概算値です。

その他(売買損益等)は、基準価額(分配金込み)の変動幅から利子収入、為替ヘッジプレミアム/コスト、信託報酬を差し引いて算出しています。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。また、四捨五入のため基準価額の変動幅と基準価額の変動要因の内訳の合計(分配金はマイナス)が相違することがあります。

米ドルコース以外のコースでは対米ドルで為替ヘッジを行うことにより、各コースの対象通貨の為替変動リスク(対米ドル)をヘッジしますが、完全にヘッジを行うことができるとは限りません。よって為替ヘッジプレミアムを十分に得ることができなったり、米ドルに対する為替変動の影響を受ける可能性があります。

上図の変動要因分析は、組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。

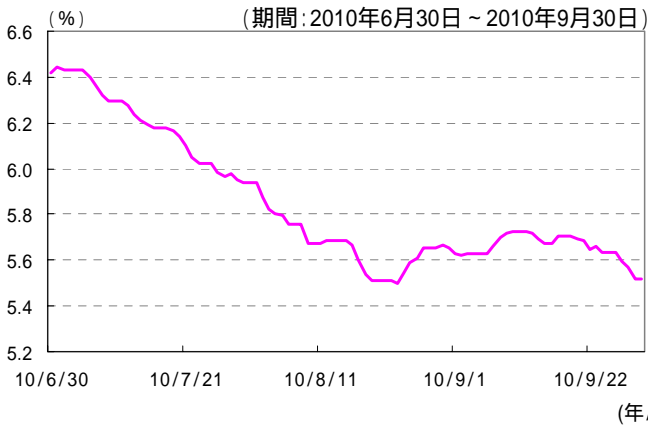
後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

2010年7月～9月のエマージング債券市場、各コースの基準価額の推移

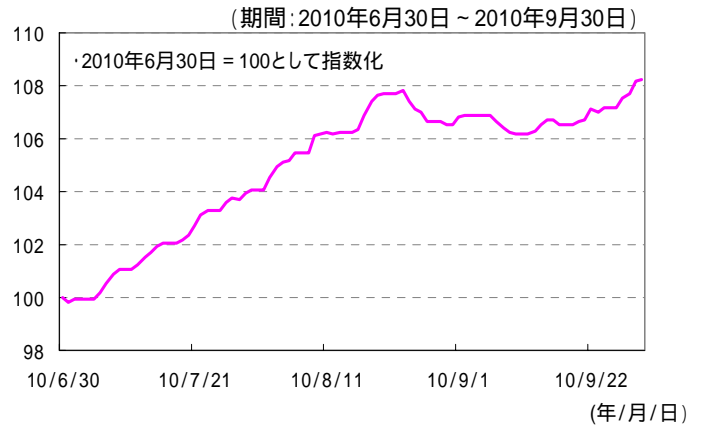
エマージング債券の市場動向

7月は、IMFが2010年の世界経済成長率見通しを上方修正したことや欧州の銀行を対象としたストレステストの発表を受け、投資家のリスク回避姿勢が緩和し、堅調な経済指標の発表が確認された新興国の債券が買われ、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。  
 8月は、インフレの落ち着きや良好なファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)が確認された国の債券が買われる展開となり、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。  
 9月は、米国の経済指標が事前予想を上回ったことや中国の製造業景況指数が改善したことなどを背景に、投資家のリスク回避姿勢が後退するなか、インフレの落ち着きや良好なファンダメンタルズが確認された国の債券を中心に、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。

【エマージング債券の利回りの推移】



【エマージング債券の価格の推移】



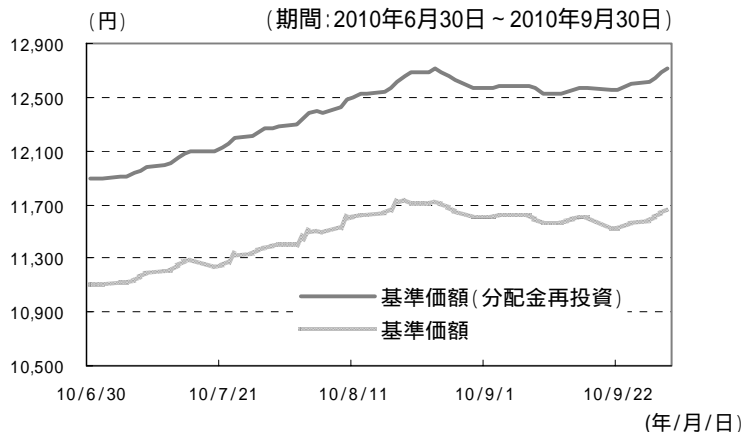
・エマージング債券はJPモルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイドを使用しています。

(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

円コース

対円で為替ヘッジを行っているため、為替の影響をほとんど受けない円コースの基準価額は、エマージング債券の価格の推移とほぼ同様の値動きとなりました。基準価額の前月末比騰落率は、7月は3.36%上昇、8月は2.30%上昇、9月は1.14%上昇しました。

【円コースの基準価額の推移】



- ・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ・上記利回りは市場および指数の利回りであり、当ファンドの各コースの利回り・分配金の水準を示唆・保証するものではありません。
- ・当ファンドの各コースの実際の利回りは新興国債券の組入比率や投資銘柄、市場環境、為替ヘッジ比率等の要因により変動しますので、上記の利回りとは異なります。
- ・当ファンドの基準価額は、当該通貨の為替市況の他、投資している米ドル建て新興国債券の市況や為替ヘッジプレミアム/コストなどの影響も受けます。
- ・米ドルコース以外のコースでは対米ドルで為替ヘッジを行うことにより、各コースの対象通貨の為替変動リスク(対米ドル)をヘッジしますが、完全にヘッジを行うことができるとは限りません。よって為替ヘッジプレミアムを十分に得ることができなかつたり、米ドルに対する為替変動の影響を受ける可能性があります。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.596%(税抜1.52%))控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は1万口当たりです。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

2010年7月～9月の各コースの基準価額、および為替の推移

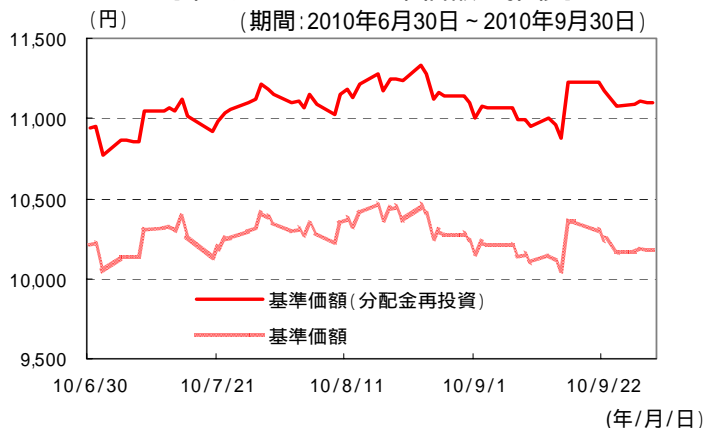
米ドルコース

7月は、6月のISM(米供給管理協会)製造業景気指数などの経済指標が弱含んだことや、4-6月期の実質GDP(国内総生産)成長率が予想をやや下回ったことから、米ドルは対円で下落しましたが、債券価格が上昇したため、基準価額は前月末比1.88%上昇しました。

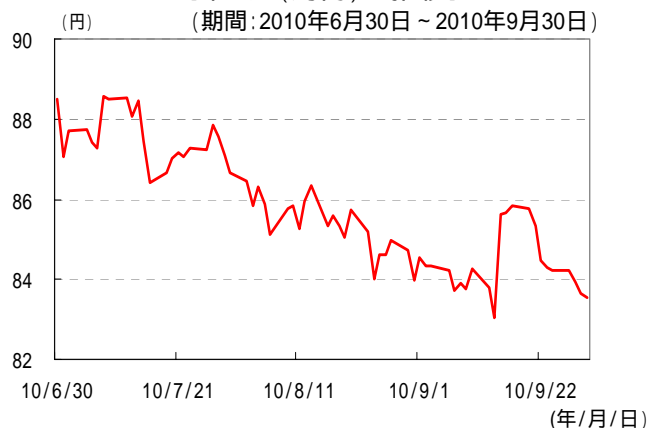
8月は、7月の非農業部門雇用者数の民間部門雇用者が小幅な増加にとどまったことや、7月の中古住宅販売件数が大幅に減少したことなどから、米ドルは対円で軟調に推移し、基準価額は前月末比0.40%下落しました。

9月は、日本政府・日銀による円売り介入が実施されたことや9月の米国の消費者信頼感指数の低下を受けて米国の長期金利が低水準で推移したことなどから、米ドルは対円で下落基調となり、基準価額は前月末比0.07%下落しました。

【米ドルコースの基準価額の推移】



【米ドル(対円)の推移】



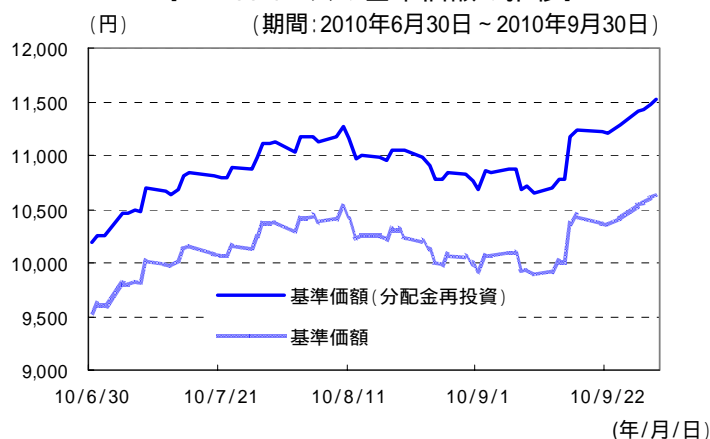
ユーロコース

7月は、南欧諸国の財政問題や金融不安の再燃によって引き起こされていた投資家の過剰なリスク回避姿勢が、ギリシャやスペインによる国債発行の成功などを受けて後退したことから、ユーロは対円で上昇し、基準価額は前月末比9.28%上昇しました。

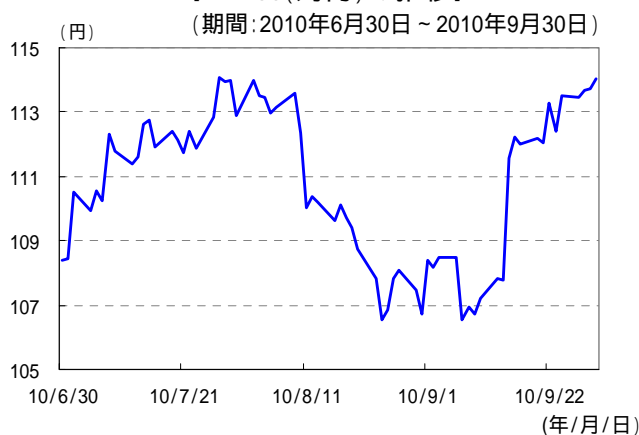
8月は、欧州主要銀行のストレステスト(資産査定)の妥当性に対する懐疑的な見方が払拭されていないことや財政再建などの構造問題が嫌気されて、ユーロは対円で下落し、基準価額は前月末比3.30%下落しました。

9月は、日銀が8月末に追加金融緩和を実施したことや、米国においても追加金融緩和の実施が示唆されたことから、ユーロを買い戻す動きとなり、ユーロは対円で上昇しました。それを受け、基準価額は前月末比7.02%上昇しました。

【ユーロコースの基準価額の推移】



【ユーロ(対円)の推移】



・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮してありませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。  
 ・為替相場はWMロイターのレートを使用しています。  
 ・当ファンドの基準価額は、当該通貨の為替市況の他、投資している米ドル建て新興国債券の市況や為替ヘッジプレミアム/コストなどの影響も受けます。  
 ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.596%(税抜1.52%))控除後の値です。  
 ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。  
 ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は1万円当たりです。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

2010年7月～9月の各コースの基準価額、および為替の推移

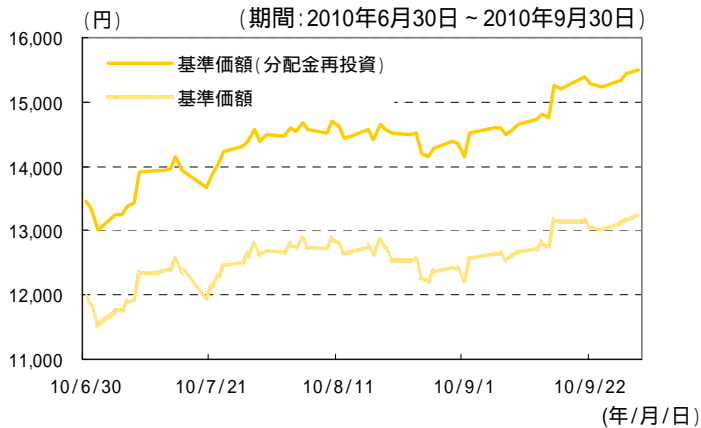
豪ドルコース

7月は、調整色を強めていた海外株式市況や石油などの資源価格が反発に転じたことや、オーストラリアの雇用指標が改善を示したことなどを受けて、豪ドルは対円で上昇しました。それを受け、基準価額は前月末比7.63%上昇しました。

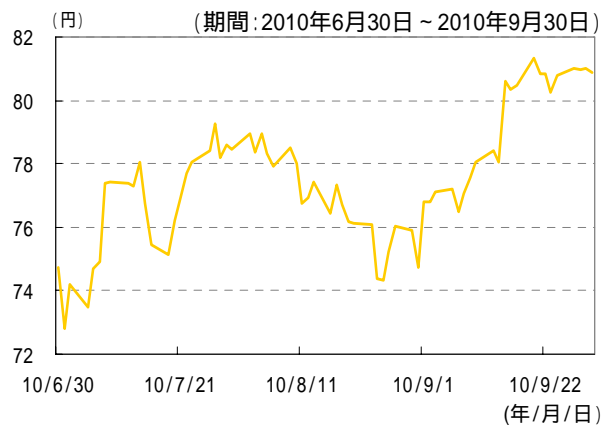
8月は、米国のFOMC(米連邦公開市場委員会)で景気見通しが下方修正されたことから投資家のリスク回避姿勢が高まり、豪ドルは対円で下落しました。また、日本の金融緩和の内容は円高是正には不十分との見方などから円が主要通貨に対して上昇したことも、対円での下落要因となり、基準価額は前月末比0.89%下落しました。

9月は、4-6月期の実質GDP(国内総生産)が1-3月期を上回る伸びとなつてオーストラリア景気の力強い拡大が続いていることが示されたほか、原油などの商品市況が堅調に推移したことで、豪ドルは対円で上昇基調をたどりました。それを受け、基準価額は前月末比8.00%上昇しました。

【豪ドルコースの基準価額の推移】



【豪ドル(対円)の推移】



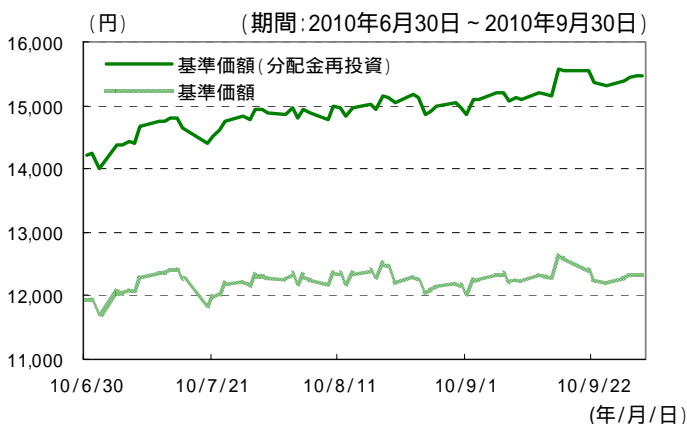
ブラジルリアルコース

7月は、IMFがブラジルの2010年の実質GDP見通しを上方修正したことなどを受けてブラジルリアルは上昇したものの、その後、世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まる中でブラジルリアルも対円で下落し、月間では小幅な上昇となりました。基準価額は前月末比4.65%上昇しました。

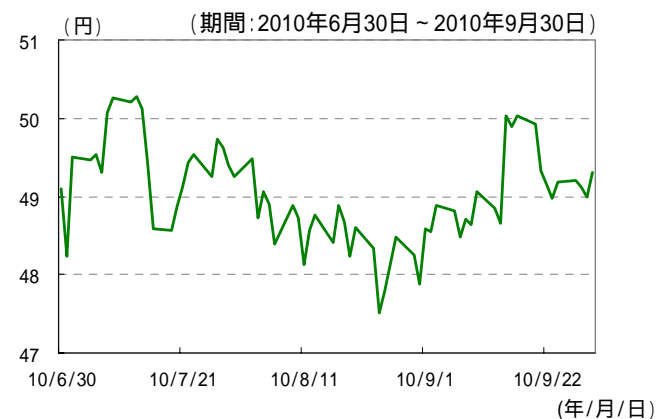
8月は、ブラジルのインフレ率低下によってブラジルの早期の利上げ打ち止め観測が浮上したことや、米国株式市況の下落を受けて投資家のリスク回避姿勢が活発化するとの見方が強まったことなどから、ブラジルリアルは軟調となりましたが、債券価格が上昇したため、基準価額は前月末比0.54%上昇しました。

9月は、2010年4-6月期の実質GDPが前年同期比8.8%の増加という高成長となったことや、8月の自動車販売が大幅増加となったことを好感して、ブラジルリアルは堅調に推移し、基準価額は前月末比3.34%上昇しました。

【ブラジルリアルコースの基準価額の推移】



【ブラジルリアル(対円)の推移】



・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。  
 ・為替相場はWMロイターのレートを使用しています。  
 ・当ファンドの基準価額は、当該通貨の為替市況の他、投資している米ドル建て新興国債券の市況や為替ヘッジプレミアム/コストなどの影響も受けます。  
 ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.596%(税抜1.52%))控除後の値です。  
 ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。  
 ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は1万口当たりです。

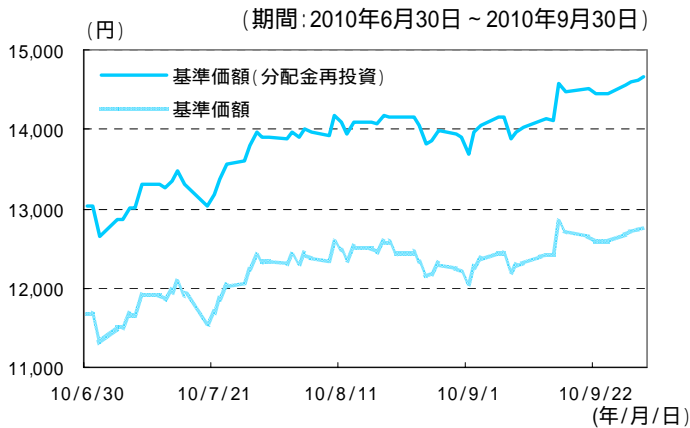
後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

2010年7月～9月の各コースの基準価額、および為替の推移

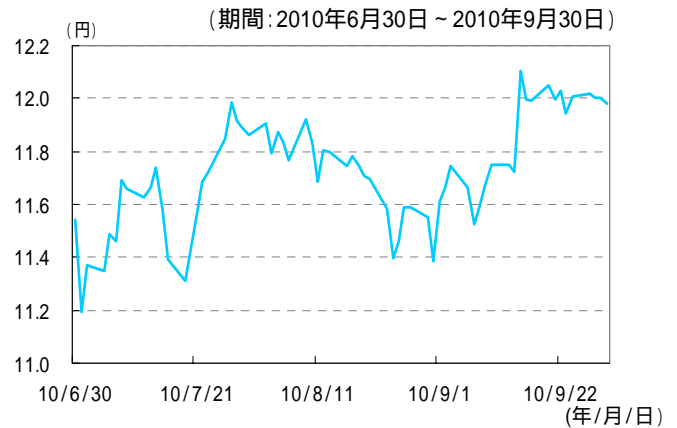
南アフリカランドコース

7月は、南アフリカの最大の輸出品目であるプラチナ価格が堅調に推移する中、高金利を背景とした海外投資家からの投資資金流入も相俟って、南アフリカランドは対円で上昇し、基準価額は前月末比6.63%上昇しました。  
 8月は、米国の主要経済指標が事前予想を下回ったことや、FRB(米連邦準備制度理事会)が景気の現状判断および先行きについて慎重な見方を一層明確にしたことなどをを受けて投資家のリスク回避姿勢が高まる中、南アフリカランドは対円で下落し、基準価額は前月末比0.11%下落しました。  
 9月は、FRBによる追加金融緩和実施への期待が高まる中、投資家のリスク資産を選好する動きが強まり、南アフリカの主要輸出品目であるプラチナや金価格が大きく上昇したことを受け、南アフリカランドは対円で上昇しました。それを受け、基準価額は前月末比5.49%上昇しました。

【南アフリカランドコースの基準価額の推移】



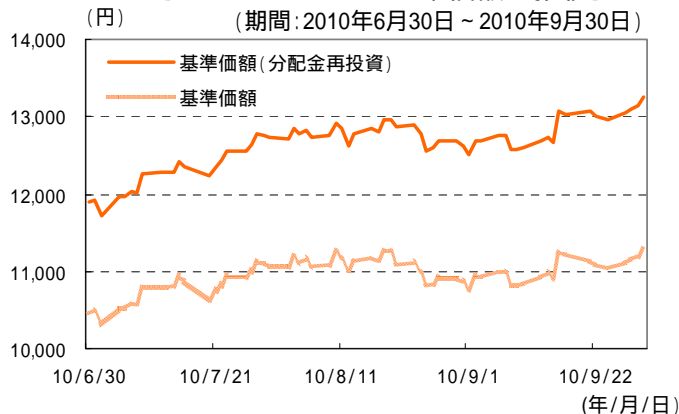
【南アフリカランド(対円)の推移】



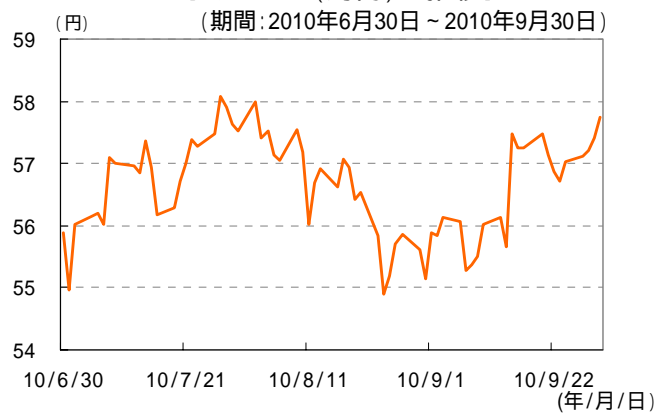
トルコリラコース

7月は、欧州における財政問題・金融システム不安に対する過度な懸念が後退し、欧州圏通貨が持ち直す中、トルコリラは対円で上昇しました。トルコの代表的な株価指数のイスタンブール100種指数が過去最高値を更新するなど、株式市場への資金流入が活発であることもトルコリラ市況上昇の一因となり、基準価額は前月末比7.02%上昇しました。  
 8月は、欧米株式市況が下落するなど投資家のリスク回避的な動きが強まる中、トルコリラは対円で下落しました。基準価額は前月末比0.83%下落しました。  
 9月は、FRBによる追加金融緩和実施への期待が高まる中、投資家のリスク資産を選好する動きが強まり、トルコリラは対円で上昇しました。4 - 6月期の実質GDP(国内総生産)成長率が前年同期比10.3%と事前予想を上回ったことも好感されました。基準価額は前月末比4.92%上昇しました。

【トルコリラコースの基準価額の推移】



【トルコリラ(対円)の推移】



・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。  
 ・為替相場はWMロイターのレートを使用しています。  
 ・当ファンドの基準価額は、当該通貨の為替市況の他、投資している米ドル建て新興国債券の市況や為替ヘッジプレミアム/コストなどの影響も受けます。  
 ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.596%(税抜1.52%))控除後の値です。  
 ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。  
 ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は1万口当たりです。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

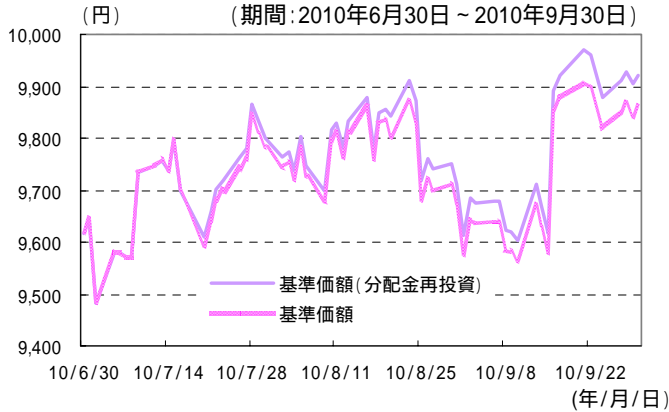


2010年7月～9月の各コースの基準価額、および為替の推移

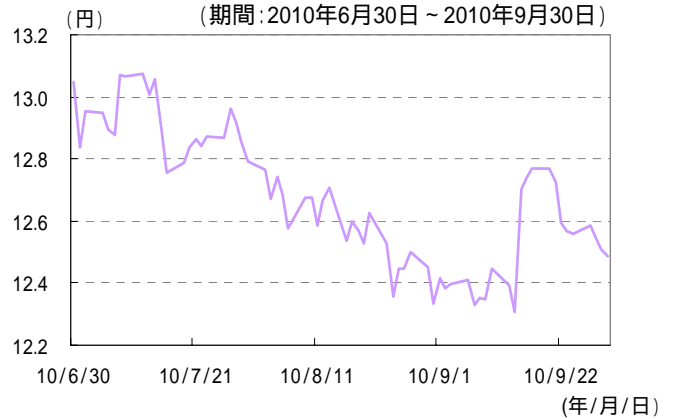
中国元コース

7月は、4 - 6月期の実質GDP成長率が前年同期比10.3%と前期の同11.9%から減速したことを受けて、市場の一部で中国の景気の先行きが懸念されたことなどから、中国元は対円で下落しました。しかし、債券価格が上昇したため、基準価額は前月末比1.91%上昇しました。  
 8月は、投資家のリスク回避的な動きが強まる中、中国元は対円で下落しました。7月の製造業PMI(購買担当者景気指数)などの主要経済指標が悪化したことも一部材料視された模様です。基準価額は前月末比0.90%下落しました。  
 9月は、8月の主要経済指標が良好であったことや、米国政府要人から中国元の水準は正を求めるとの発言が相次ぐ中、中国当局がある程度の中国元高を容認するとの見方が強まり、中国元は対円で上昇しました。それを受け、基準価額は前月末比2.14%上昇しました。

【中国元コースの基準価額の推移】



【中国元(対円)の推移】

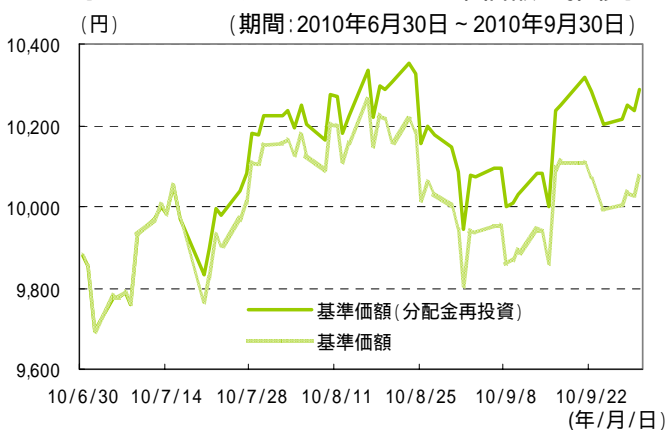


・中国元コースは初回決算が2010年7月20日です。

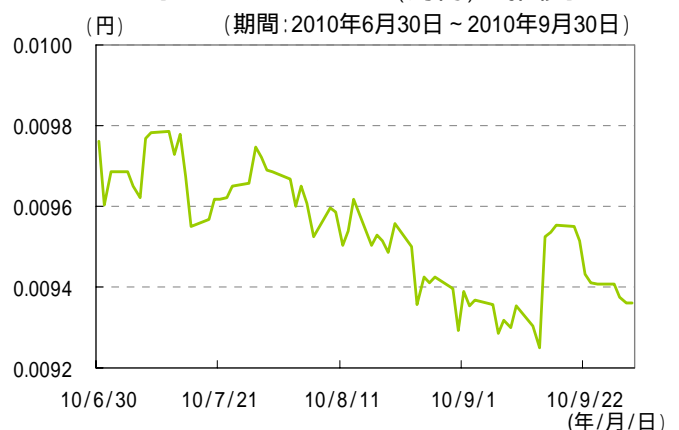
インドネシアルピアコース

7月は、6月のCPI(消費者物価指数)が前年同月比5.05%と前月の同4.16%から伸び率が拡大する中、インドネシア中央銀行のムルヤ副総裁が「近く政策金利を変更する計画はない」と述べたことから、インフレリスクが懸念され、インドネシアルピアは対円で下落しました。しかし、債券価格が上昇したため、基準価額は前月末比3.45%上昇しました。  
 8月は、投資家のリスク回避的な動きが強まる中、インドネシアルピアは対円で下落しました。7月のCPIが前年同月比6.22%と前月の同5.05%から更に伸び率が拡大したことから、引き続きインフレリスクが投資家から嫌気されました。基準価額は前月末比1.33%下落しました。  
 9月は、8月のCPIが前年同月比6.44%と前月の同6.22%から更に伸び率が拡大したことから引き続きインフレリスクが懸念され、インドネシアルピアは対円で下落しました。しかし、債券価格が上昇したため、基準価額は前月末比2.01%上昇しました。

【インドネシアルピアコースの基準価額の推移】



【インドネシアルピア(対円)の推移】



・インドネシアルピアコースは初回決算が2010年7月20日です。

・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。  
 ・為替相場はWMロイターのレートを使用しています。  
 ・当ファンドの基準価額は、当該通貨の為替市況の他、投資している米ドル建て新興国債券の市況や為替ヘッジプレミアム/コストなどの影響も受けます。  
 ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.596%(税抜1.52%))控除後の値です。  
 ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。  
 ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は1万円当たりです。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

<ご参考> 各コースの分配金実績(税引前)、設定来の基準価額推移

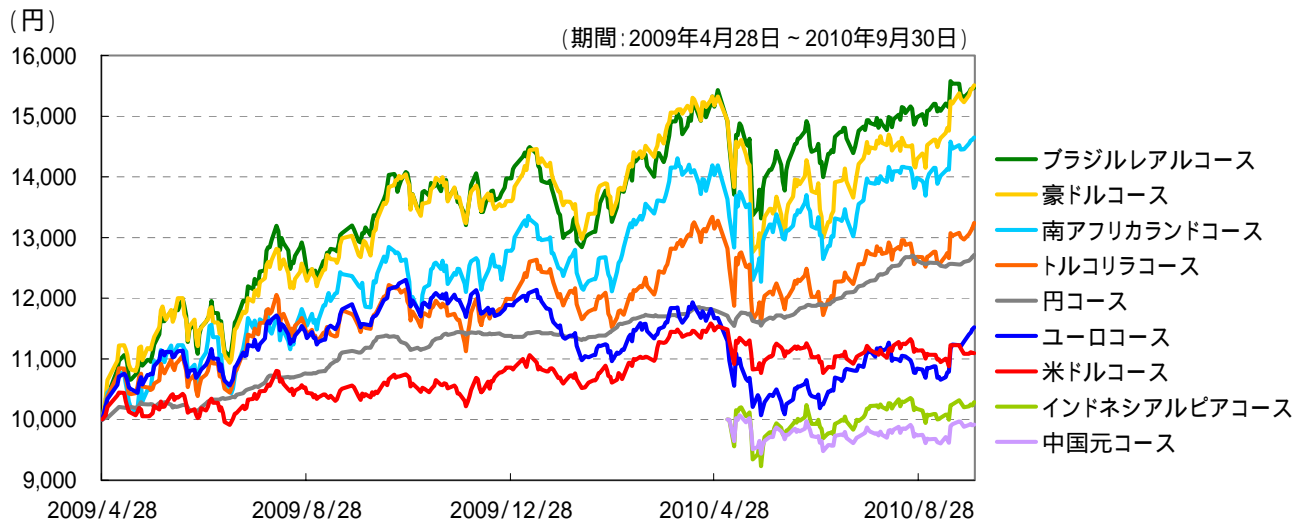
各コースとも、設定来、毎月安定した分配を継続しています。

【各コースの分配金実績(税引前)】

(2010年10月20日現在)

通貨コース	円コース	米ドルコース	ユーロコース	豪ドルコース	ブラジルリアルコース	南アフリカランドコース	トルコリラコース	中国元コース	インドネシアルピアコース	
分配金	第1期(09/07/21)	60円	60円	60円	100円	180円	110円	120円	-	-
	第2期(09/08/20)	60円	60円	60円	100円	180円	110円	120円	-	-
	第3期(09/09/24)	60円	60円	60円	100円	180円	110円	120円	-	-
	第4期(09/10/20)	60円	60円	60円	100円	180円	110円	120円	-	-
	第5期(09/11/20)	60円	60円	60円	100円	180円	110円	120円	-	-
	第6期(09/12/21)	65円	60円	60円	140円	180円	110円	120円	-	-
	第7期(10/01/20)	65円	60円	60円	140円	180円	110円	120円	-	-
	第8期(10/02/22)	65円	60円	60円	140円	180円	110円	120円	-	-
	第9期(10/03/23)	65円	60円	60円	140円	180円	110円	120円	-	-
	第10期(10/04/20)	65円	60円	60円	160円	200円	110円	120円	-	-
	第11期(10/05/20)	65円	60円	60円	160円	200円	110円	120円	-	-
	第12期(10/06/21)	65円	60円	60円	160円	200円	110円	120円	-	-
	第13期(10/07/20)	65円	60円	50円	160円	200円	110円	120円	20円	70円
	第14期(10/08/20)	65円	60円	50円	160円	200円	110円	120円	20円	70円
	第15期(10/09/21)	65円	60円	50円	160円	200円	110円	120円	20円	70円
	第16期(10/10/20)	65円	60円	50円	160円	200円	110円	120円	20円	70円
計	1,015円	960円	920円	2,180円	3,020円	1,760円	1,920円	80円	280円	
基準価額	11,725円	10,002円	10,613円	13,006円	12,177円	12,534円	11,242円	9,881円	9,880円	
純資産総額	518億円	9億円	11億円	350億円	5,930億円	12億円	10億円	3億円	50億円	

【各コースの基準価額(分配金再投資)の推移】



中国元コース、インドネシアルピアコースは2010年5月6日設定です。

(年/月/日)

- ・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。
- ・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.596%(税抜1.52%))控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)および分配金は1万円当たりです。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

## 三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ

### ファンドの特色

- ・三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズは、以下10本のファンドで構成される投資信託です。
  - <円コース> (毎月分配型)
  - <米ドルコース> (毎月分配型)
  - <ユーロコース> (毎月分配型)
  - <豪ドルコース> (毎月分配型)
  - <ブラジルリアルコース> (毎月分配型)
  - <南アフリカランドコース> (毎月分配型)
  - <トルコリラコース> (毎月分配型)
  - <中国元コース> (毎月分配型)
  - <インドネシアルピアコース> (毎月分配型)
  - <マネーボールファンド>
- ・各ファンド(マネーボールファンドを除く)は、主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、米ドル建ての新興経済国の国債や政府機関債等に実質的な投資を行い、高い利子収入の獲得と中長期的な信託財産の成長をめざします。また、円建国内証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンドへの投資も行います。(ファンド・オブ・ファンズ形式)
- ・マネーボールファンドは、マネー・マーケット・マザーファンドを通じて、わが国の短期公社債等を中心に投資し、利子等収益の確保をめざします。
- ・為替変動リスクの異なる9本のファンドと「マネーボールファンド」があり、各ファンド間でスイッチングが可能です。
- ・各ファンド(マネーボールファンドを除く)が投資を行う外国投資信託においては、主に米ドル建ての新興国債券に投資を行いますが、米ドルに対し各ファンドの対象通貨で為替ヘッジを行うため、基準価額は各ファンドの対象通貨の為替変動の影響を受けます。なお、円コース(毎月分配型)では、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
- ・各ファンド(マネーボールファンドを除く)は、原則として毎月20日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行います。
- ・マネーボールファンドを除く各ファンドにおいて、投資信託証券への運用の指図に関する権限は、ピムコジャパンリミテッドに委託します。

### 商品概要

設定日	: 2009年4月28日 <中国元コース> (毎月分配型)、<インドネシアルピアコース> (毎月分配型) の設定日は2010年5月6日
決算日	: 原則として、各ファンド(マネーボールファンドを除く)は毎月20日(休業日の場合は翌営業日)、 マネーボールファンドは毎年4・10月の各20日(休業日の場合は翌営業日) <中国元コース> (毎月分配型)、<インドネシアルピアコース> (毎月分配型) の初回決算日は、2010年7月20日
信託期間	: 2014年4月21日まで ただし、各ファンドの残存口数が10億口を下回った場合または各ファンドの残存口数の合計が50億口を下回った場合等には、信託期間の途中で信託を終了することがあります。
ベンチマーク	: 規定してありません。
お買付け申込み・中途換金	: 原則として、いつでもお買付申込み、換金のお申込みができます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行の休業日に該当する日については、お買付・中途換金のお申込みができません(マネーボールファンドを除く)。
申込価額	: 申込受付日の翌営業日の基準価額 (注) マネーボールファンドへの申込みは、スイッチングの場合に限ります。

#### 【お客さまには以下の費用をご負担いただけます。】

申込時に直接ご負担いただく費用	
申込手数料	: 申込価額×3.15%(税抜3%)を上限として販売会社が定める手数料率 (注) マネーボールファンドには申込手数料はかかりません。
換金時に直接ご負担いただく費用	
信託財産留保額	: なし
保有期間中に間接的にご負担いただく費用	
信託報酬	: <各ファンド(マネーボールファンドを除く)> 純資産総額に対して、年率1.596%(税抜1.52%) ファンドが投資対象とする投資信託証券では信託報酬はかかりませんので、受益者が負担する実質的な信託報酬は上記と同じです。 <マネーボールファンド> 純資産総額に対して、年率0.5775%～0.0105%(税抜0.55%～0.01%) 金利水準に応じて適用される率が異なります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
その他費用(*)	: 売買委託手数料、監査報酬、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等

(\*)「その他費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。  
(課税関係) 個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。  
詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。  
当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

【お申込不可日について(マネーボールファンドを除く)】2010年の該当日は1月18日、2月15日、4月2日、5月31日、7月5日、9月6日、11月11日、11月25日、12月24日です。なお、休業日は変更される場合があります。

**三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ**

**当資料のご利用にあたっての注意事項等**

「各ファンド(「マネープールファンド」を除きます。)」

各ファンドは、主に公社債を実質的な投資対象としますので、金利変動により組入公社債の価格が下落すること、組入公社債の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により組入公社債の価格が下落すること等で各ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、実質的に外貨建資産に投資しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。各ファンドの主な投資リスクとして、組入公社債の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク等があります。

「マネープールファンド」

ファンドは、主に公社債を実質的な投資対象としますので、金利変動により組入公社債の価格が下落すること、組入公社債の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により組入公社債の価格が下落すること等でファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの主な投資リスクとして、組入公社債の価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク等があります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入していません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。/ 投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/ 運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

**当資料で使用したインデックスについて**

**JPモルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイド**

JPモルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.Morgan Securities Inc.が算出し公表している米ドル建ての新興国債および国債に準じる債券のパフォーマンスを表す指数で、指数構成国の組入比率に調整を加えた指数です。組入比率の調整を行わない指数としてJPモルガンEMBIグローバルがあります。

**JPモルガンELMI+**

JPモルガンELMI+とは、J.P.Morgan Securities Inc.が算出し公表している新興国の現地通貨建ての短期金融市場の収益率を表す指数で、主に新興国の為替のフォワード取引等をもとに算出される指数です。

当資料に含まれるJPモルガンのインデックス商品(以下、「本インデックス」といいます。))に関する情報(以下、「当情報」といいます。))は、情報の提供のみを目的として作成したものであり、金融商品の募集・勧誘若しくはその一部を構成し、又は本インデックスが参照する取引又は商品の価値若しくは価格を公式に確認するものではありません。当情報は、いかなる投資戦略の採用を推奨するものでもなく、法令、税務又は会計上の助言を行うものではありません。当情報に含まれる市場価格、データその他の情報は、信頼できるとされるものですが、その完全性及び正確性及び有用性を保証するものではありません。ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・インク(以下、「JPMSI」又は「インデックス・スポンサー」といいます。))は、当情報、本インデックスにおいて参照する証券、金融関連商品又は取引の管理、マーケティング又は取引に関連して、何らの責任又は義務を負いません。当情報の内容については、今後予告なく変更されることがあります。当情報に含まれる実績は過去のものであって将来の運用成果を示すものではなく、将来の運用成績は変化します。JPモルガン、その関係会社又はそれらの従業員は、本インデックスの発行体のデータに係る金融商品について自己のポジション(ロング若しくはショート)を有し、取引を行い、又はそのマーケット・メイカーとして行為している可能性があるほか、かかる発行体の引受人、販売代理人、アドバイザー又は貸主となっている可能性があります。

JPMSIは、全米証券業者協会、ニューヨーク証券取引所及び米国証券投資家保護公社の会員です。「JPモルガン」は、ジェー・ピー・モルガン・チェース・バンク・エヌ・イー、JPMSI、ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・リミテッド(英国金融監督庁認可、ロンドン証券取引所会員)及びその投資銀行業務関連会社の投資銀行業務についてのマーケティング上の名称です。

当情報の著作権は、ジェー・ピー・モルガン・チェース・アンド・カンパニーに帰属します。

**(お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)**

設定・運用 ... 三菱UFJ投信株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
 加入協会 (社)投資信託協会  
 (社)日本証券投資顧問業協会

<お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034 (毎営業日の9:00~17:00)  
 <オフィシャルサイト> <http://www.am.mufig.jp/>  
 基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m-muam.jp/a/1/3>  
 (\*メール配信対象外ファンドもあります。)



三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ

当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

「各ファンド(「マネーボールファンド」を除きます。)」

<p><b>市場リスク</b></p>	<p>(価格変動リスク) 各ファンドは、公社債を実質的な主要投資対象としており、公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、各ファンドはその影響を受け公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>(為替変動リスク) 「円コース(毎月分配型)」 実質的な主要投資対象である海外の公社債は主に米ドル建て資産ですが、当ファンドが投資する外国投資信託において、米ドル売り、円買いの為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図ります。しかし、為替ヘッジにより、保有通貨の為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。そのため、為替相場の変動によっては、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>なお、為替ヘッジを行う場合で円金利が米ドル金利より低いときには、これらの金利差相当分がヘッジコストとなります。</p> <p>「米ドルコース(毎月分配型)」 実質的な主要投資対象である海外の公社債は主に米ドル建て資産ですが、当ファンドが投資する外国投資信託において、為替ヘッジを行わないため米ドルの対円での為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が米ドルに対して円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>「ユーロコース(毎月分配型)」/「豪ドルコース(毎月分配型)」/「ブラジルリアルコース(毎月分配型)」/「南アフリカランドコース(毎月分配型)」/「トルコリラコース(毎月分配型)」/「中国元コース(毎月分配型)」/「インドネシアルピアコース(毎月分配型)」 実質的な主要投資対象である海外の公社債は主に米ドル建て資産ですが、各ファンドが投資する外国投資信託において、米ドル売り、各ファンドの対象通貨買いの為替ヘッジを行うため、当該通貨の対円での為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が当該通貨に対して円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>なお、為替ヘッジを行う場合で当該通貨の金利が米ドル金利より低いときには、これらの金利差相当分がヘッジコストとなります。</p> <p>為替取引に関する規制がある場合など、通貨によっては、取引量が少なく需給動向等の影響を受けやすいため、市場で取引もしくは公表されている金利と大きく乖離した金利水準をもとに取引されることがあります。このため、当該通貨の金利が米ドルより高いときであっても、ヘッジコストが生じる場合があります。</p>
<p><b>信用リスク</b></p>	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。各ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>

三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ

当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

<p><b>流動性リスク</b></p>	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、各ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p><b>カントリーリスク</b></p>	<p>新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、市場・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込む可能性が高まる可能性があります。</p>
<p><b>留意事項</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。</li> <li>・各ファンドは、原則として毎期収益分配を行う方針ですが、毎期一定水準の収益分配金の支払いを保証するものではなく、収益分配金額は運用実績に応じて変動します。なお、分配対象収益が少額の場合には、収益分配を行わないことがあります。</li> </ul>

**三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ**

**当ファンドにかかるリスクについて**

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

**「マネープールファンド」**

<p><b>市場リスク</b></p>	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、公社債を実質的な主要投資対象としており、公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p><b>信用リスク</b></p>	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p><b>流動性リスク</b></p>	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p><b>留意事項</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。</li> <li>・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。</li> </ul>

